

## 飢肥城(飢肥院)(日南市史跡, 百名城)(日南市飢肥 10 丁目)(飢肥小学校)

飢肥城(おびじょう)は、日向国南部(現在の宮崎県日南市)にある日本の城である。江戸時代は伊東氏飢肥藩の藩庁として栄えた。飢肥市街北部の丘陵に曲輪を幾つも並べた群郭式の平山城である。

### 歴史・沿革

#### 戦国時代

飢肥城は宇佐八幡宮の神官の出で、日向の地に武士団として勢力を伸ばした土持氏が南北朝時代に築城したのが始まりと伝えられ、飢肥院とも呼ばれていた。時代は下って、室町時代末期の長祿2年(1458)九州制覇を狙う薩摩の島津氏が、鎌倉時代から日向で勢力を蓄えてきた伊東氏の南下に備えて、志布志城主で島津氏の一族である新納忠統を飢肥城に入城させた。

戦国初期は薩摩国の戦国大名島津氏の属城で、はじめ築城主の土持氏が治めていた。1484年に日向中北部を支配する伊東氏が土持氏を裏切り飢肥に侵攻し、当時の当主である伊東祐国が戦死すると、伊東氏の本格侵攻を恐れた島津氏は、領土の割譲と戦の原因となった飢肥城主の交代(このときより飢肥城は島津豊州家の支配となる)によって急場を凌いだ。

だが、当主を失った伊東氏の飢肥城にかかる執念は凄まじく、その後も伊東氏による飢肥侵攻が断続的に続けられることとなる。1567年、念願かなって飢肥城を奪取した伊東義祐(祐国の孫)は、子の祐兵に飢肥の地を与えた。しかし、1572年に伊東氏が木崎原の戦いをきっかけに没落すると、日向国全土を島津氏が治めるところとなり、飢肥も再び島津氏の支配するところとなった。

伊東氏の没落によって両氏の争いに終止符が打たれたかに思われたが、飢肥を失った伊東祐兵が羽柴秀吉に仕え、九州征伐に参加し活躍した戦功により再び飢肥の地を取り返し、大名として復活を成し遂げた。以後、廃藩置県で飢肥藩が廃止されるまで伊東氏の領するところとなった。江戸期、伊東氏は豊臣系の外様大名という微妙な地位ながらも飢肥の地で家名を全うしたが、ひとえに関ヶ原の戦いで東軍側にたった数少ない九州大名だったことが物を言ったのであろう。

祐国が飢肥に侵攻した1484年から祐兵が豊臣大名として飢肥城主となった1587年までは103年の長きに及ぶ。これだけの長期間に渡って伊東・島津氏という2つの勢力が一貫して1つの城を巡って争い続けた例は、日本の戦史において稀有な例と言えよう。

#### 現代

近年では1978年に大手門が復元されたほか、本丸跡には日南市立飢肥小学校(藩校の振徳堂が前身)が建てられている。

NHK連続テレビ小説わかばのロケ地になったことでも有名である。

2006年(平成18年)4月6日、日本100名城(96番)に選定された。

Wikipediaによる



No 001234

# 鉄肥城

この通行手形で

- 豫章館と庭園
- 松尾の丸
- 歴史資料館
- 小村記念館
- 旧山本猪平家
- 商家資料館
- 旧高橋源次郎家

ご覧になれます。  
当日限り有効

**大人 ¥610**

通行手形

## 鉄肥城下町案内図

—— 伝統的建造物群保存地区(昭と52年指定)